

で、最新式だった施設の建物や設備などは、時間の流れの中で古くなり、痛み、既に新しい物と交換をしたものもあります。また、利用者さんも、開所当初から施設で暮らす人は、当然15歳年齢が高くなっています。そのため、少し老化が気になる人たちも出てきました。職員も法人内の異動や、退職される方もあり、開所当時を知る人はほとんど居なくなりました。地域との関わりは、当時の厳しい視線から、とても優しく・温かく、受け入れていただけるようになり、何かとご支援・ご協力をいただけるようになりました。そのような経過を経てきた福島育成園では、これまで、利用者やそのご家族が、ご病気や事故で何人かの方が亡くなりました。生きる人を支える場面においては、「死」ということを決して避けることはできないことなのですが、だからこそ、「(今の)暮らしの質」にこだわることが大切なのだと思います。

私は、私達の『対人援助』と言われる仕事の本質は、利用者の皆さんが、その支援を利用される事で、「安全で、安心して、楽しく、快適に、自分らしく」毎日を過ごすことができたり、暮らしていけるようになることを実現することにあると考えています。本来、日常のいろいろな介護・介助、また様々な日中活動サービスや、就労支援のプログラムなども、実はすべてこの本質を目指しているはずなのです。私たちはこのことを決して忘れてはいけないし、たとえそこに時間の流れがあったとしても、決して変わってはいけないことだろうと思います。これまでの福島育成園で、その事が行えていなかったということではなく、あらためて、とことんその部分に拘って、まず今年1年間頑張っていきたいと思います。施設のプログラムや、建物等のハード、直接支援や接遇に関して、職員全員で一つずつ見つめなおし、改善すべきは改善し、支援の質を高める努力をする中で、「暮らしの質」の向上に努めたいと思います。

今年も、懸命に支援に当たってくれた5名の職員が退職し4名の職員が他施設への異動となり、福島育成園を離れました。彼らに力を借りられない事は不安ではありますが、その分、法人内の各部署から、8名のスタッフが新たに加わってくれました。福島育成園に配属になった全職員で力を合わせて、精一杯の努力をしてまいりたいと思います。ご支援ご協力よろしくお願ひ致します。

心地よい暮らしができることを目指して

福島育成園

管理者 長谷 弥朋

この度の人事異動により、港育成園より5年ぶりに福島育成園に異動してまいりました長谷弥朋と申します。よろしくお願ひいたします。

私が最初に福島育成園に赴任してきた時は15年前の立ち上げ当初で、まだ福島第一育成園・福島第二育成園と入所と通所に分かれており、どちらの施設も手探り状態で日課の流れや取り組みの内容などを試行錯誤していたことを思い出します。月日は流れ野田阪神の街の景色は変わっており、大きなマンションやコンビニなどが多くなっていて戸惑いました。一方、福島第一育成園と福島第二育成園の入所と通所が統合され、以前勤めていた福島第二育成園の通所施設の時の日課の流れや利用者の方の過ごし方が以前とは大きく変わっており、また24時間支援という事に戸惑いばかりの毎日を送っています。

4月から福島育成園へ勤務することになり感じた事なのですが、24時間支援、ローテーション勤務という事もあり、その日その時で対応する支援員が違うため、利用者の方一人ひとりに継続した支援を行っていくため支援員間で報告の仕方や引き継ぎを行う際の表現の仕方や伝え方の工夫などが通所施設以上に必要であると感じました。また、利用者の方の気持ちや身体の状態などその日その時間で違ってくることは当たり前のことで、その利用者の方の状態を正確に支援員間で伝える言葉や表現の仕方が大切になってくると感じています。その為、支援者どうしでの話し合いや会議の持ち方など気持ちや考えを言葉にして伝える機会を多く取り入れながら、利用者の方一人ひとりにとってどのような関わりや支援の在り方が利用者の方が心地よいと感じる事ができるのか、また、理解しやすく安心しやすいのかを支援員間で共有できるようにしていきたいと思います。

地域の皆さまや保護者の皆さまのお力添えを頂きながら、福島育成園を利用される方一人ひとりにとって、安心安全に、また心地よくその方が望まれている生活を送ることができるよう努力をして参りますので、皆さまのご指導ご支援よろしくお願ひ致します。

